

リンパ浮腫の治療について

形成外科 小川晴生

リンパ浮腫とは、外傷、悪性腫瘍切除によるリンパ管、リンパ節の損傷や、先天的なリンパ組織の形成不全によりリンパ管の流れが障害され、**四肢に浮腫（むくみ）を生じる**病態です。それにより、患肢に**倦怠感、疼痛、蜂窩織炎などの感染症を生じる**ことがあります。先進国では四肢にリンパ浮腫を生じる主な原因として、乳腺や婦人科腫瘍の手術治療に伴うリンパ節郭清が挙げられます。これらの症状を改善するために当院では以下の治療を行っています。

保存的治療

マッサージによる**リンパドレナージ**や**弾性着衣（ストッキング、スリーブ）**の使用により、浮腫の改善を図ります。これらの治療はリンパ浮腫のすべての患者様に治療の適応があります。当院では、**リンパ浮腫療法士の資格をもつ看護師**が患者様への指導や説明を行っています。

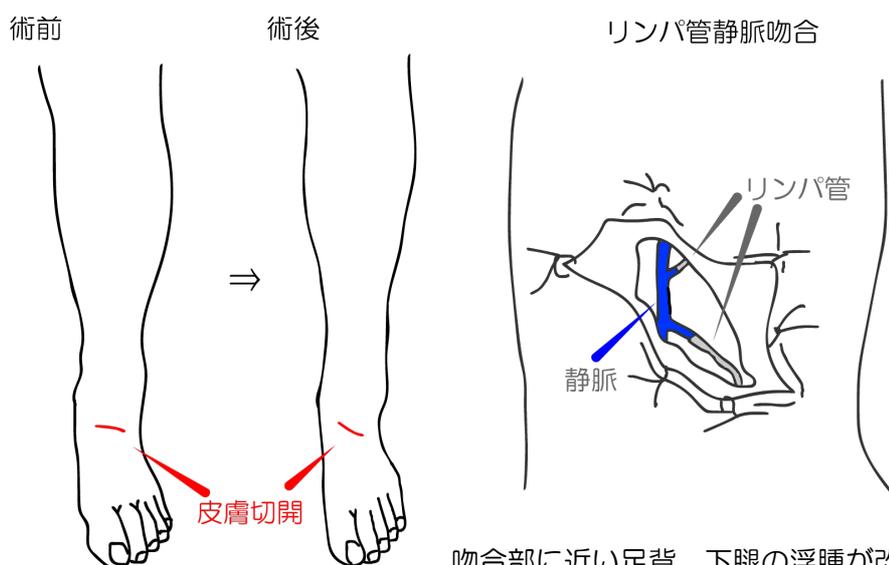
外科的治療

上記の保存的治療は歴史があり、一定の治療効果を安定して得られる治療法です。その一方で、保存的に治療により浮腫が改善しない場合や、マッサージや弾性着衣の使用が困難な患者様において、形成外科では手術による治療を行っています。

*手術の前後においても、リンパドレナージや弾性着衣をお勧めする可能性があります。

リンパ管静脈吻合術：

リンパ管と静脈を吻合し、流れの悪くなったリンパ流を静脈へ排出する通路を作る手術です。2cm ほどの皮膚切開を行い顕微鏡下で手術を行います。患者さんの体への侵襲が少ないため、患者さんには勧めやすい手術です。手術時間はリンパ管静脈吻合の本数によって異なります（1～3時間）。また、手術は全身麻酔、局所麻酔のいずれで行うことも可能です。



血管柄付きリンパ節移植術：

リンパ管静脈吻合術は侵襲が少ない治療ですが、吻合部の長期的な開存率は 30～40%とされており、患者様によっては長期の治療効果が望めない可能性があります。それに対して、**血管柄付きリンパ節移植術**は、移植したリンパ節を介して周囲のリンパ液が排出され、リンパ管新生を促すことにより、良好な治療効果を得ることが報告されています。当科でも、必要に応じて、血管柄付きリンパ節移植を行っています。こちらの治療は全身麻酔下での手術が必要となります。

